



## DXへの取り組み

オプテックス株式会社

代表取締役社長 上村 透

2024.2.19

# 目次

---

- はじめに
- Business DX
- Inner DX
- 人財の強化
- DX管理・推進体制

## はじめに

---

- オプテックスについて
- 経営理念
- 当社におけるDX
- グローバル業務改革・ビジネスモデル変革（DX経営）

# オプテックスについて

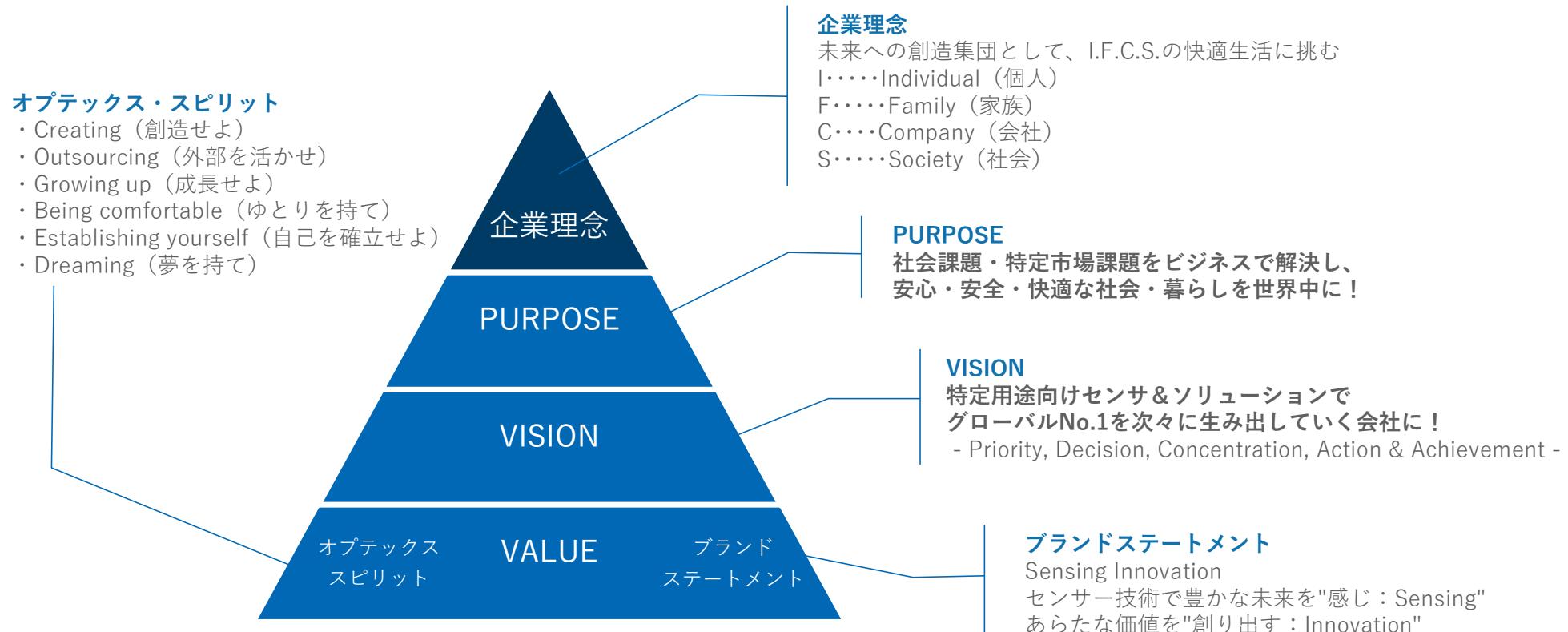
オプテックスは「安全・安心・快適」をコンセプトに、幅広い社会や産業の課題を解決する製品やサービスを提案してまいりました。他社の追従が容易でない高い技術力、世界各国から収集されたデータをもとにしたノウハウの蓄積で圧倒的な差別化とユニークな解決策を提供し、特定分野においてグローバルニッチNo.1を生み出し続けることを目標としています。

## オプテックスグループ株式会社 (東証プライム上場 証券コード:6914)



# 経営理念

オプテックスの使命は、センシング技術を世界の安全・安心・快適な社会づくりに役立て、よりよい未来を築いていくことです。そのために、私たちは、社会の潜在的なニーズや真の課題を見出し、独自のアイデアと確かな技術力で解決手段や新たな価値を提供します。



## 当社におけるDX



オプテックス株式会社は、創業以来磨き続けてきたセンシング技術と使用される環境や現場特有の課題を解決する現場力で、防犯・自動ドア・環境などの分野でグローバルニッチNo.1の製品やサービスを世の中に提供し続けております。

いまやセンサーから得られるデータは、産業の不可欠なファクターとなり、さらにデータに対する価値認識はますます高まっています。ICTやIoT、クラウドの進展、普及により、センサーとインターネットは簡易に繋がるようになり、当社は、今までのモノの提供に加え、センサーデータを利用したソリューション提案型のビジネスモデルに注力をしております。

管理の効率化、制御、状況判断、サービス向上といったさまざまなソリューションを構築、運用するパートナーとアライアンスや技術連携を進め、課題解決には「何が必要か」、「センシング要求は何か」など本質のニーズやお客様への価値を模索し、技術とビジネスモデルを繋ぎ、ソリューション・サービスの提供を進めております。

また、製品やサービスのみならず、基幹システムやデジタルマーケティングにおいてもデータ連携を進め、経営と事業の双方でDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しております。

オプテックスは、安全・安心・快適な社会に役立ち、よりよい未来を創造する集団として、お客様とともにグローバルな成長とビジネスの発展に貢献してまいります。



オプテックス株式会社  
代表取締役社長

上村 透 

# グローバル業務改革・ビジネスモデル変革（DX経営）



## ビジネスモデル変革／Business DX

- ・顧客や社会のニーズに即した、社会課題・特定市場課題を解決する、ソリューション・サービス事業（IoT活用）にビジネスモデル変革
- ・ダイレクトマーケティングに注力
- ・マネタイズ、安全運営に関する取り組み

## グローバル業務改革／Inner DX

- ・グローバルに業務のデジタル化・標準化、物流・SCM改革（ERP活用）
- ・営業活動環境、開発環境、リモートワーク環境整備（CRM、PLM、）
- ・ビジネス環境の激しい変化に対応できるITインフラの構築、セキュリティ強化
- ・経営基盤刷新プロジェクト、など

## 人財の強化

- ・Inner & Business DX 推進のためのITリテラシー向上、人財育成

## Business DX

---

- 解決したい社会課題
- 活用例のご紹介

# 解決したい社会課題

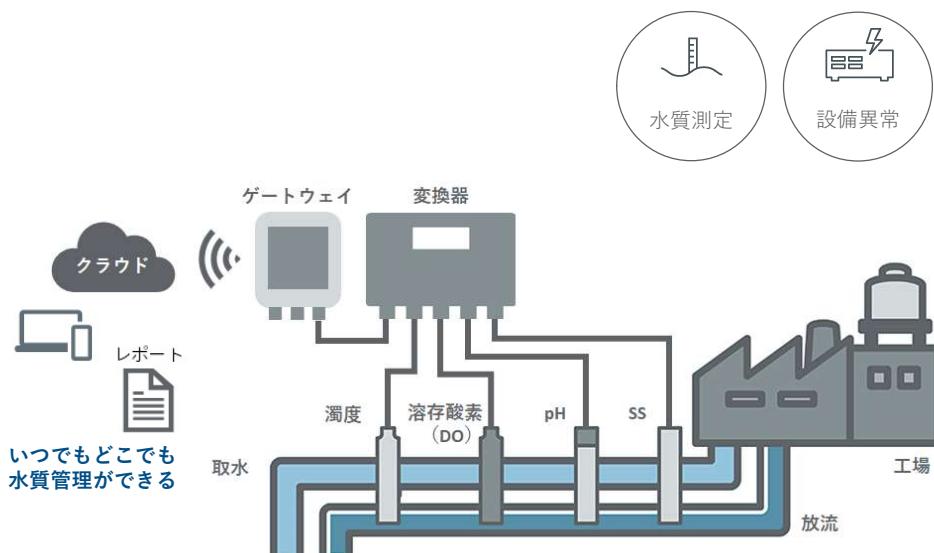
人手不足や働き方改革といった社会環境に対し、IoTを活用した効率化で現場課題と経営的課題を解決します。現在の業務や作業をいかに効率化できるかを重視し、最小限の投資と時間で実現しやすい「簡易モニタリング」や、カメラを利用した「画像確認システム」など、予算や課題に応じたさまざまなソリューションをご提案いたします。



## 活用例のご紹介

### “WATER it”を利用した工場排水遠隔監視

排水監視に必要な各種水質測定センサーの測定データを収集・見える化し、パソコンやスマートフォンで状態を把握できる仕組みをトータルでご提供。収集した水質データは、工場内だけでなく遠隔地からも監視することができ、いつでもどこでも水質管理を行うことが可能です。



### スーパーで“OMNICITY (オムニシティ)”活用

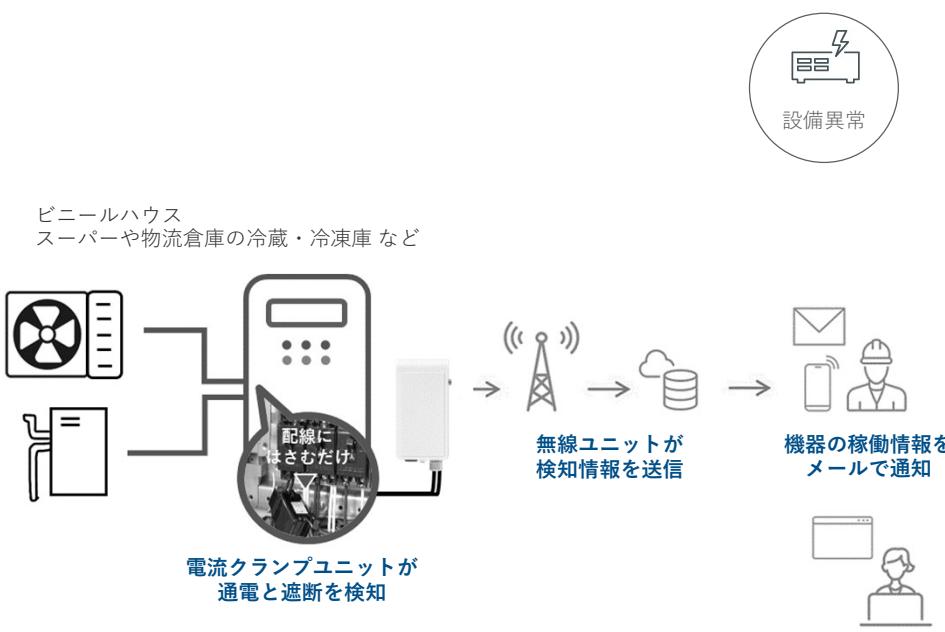
OMNICITYは、Beacon機能を搭載した自動ドアセンサーから通行者のスマートフォンに役立つ情報を配信したり、来店計測を行うサービスとの連携などが可能な情報シェアリングサービスです。スーパーででは、来店時のベストタイミングにクーポンを配信することにより、顧客満足度と店舗収益性の両方の向上が期待できます。また、来店顧客の分析にも活用できます。



# 活用例のご紹介

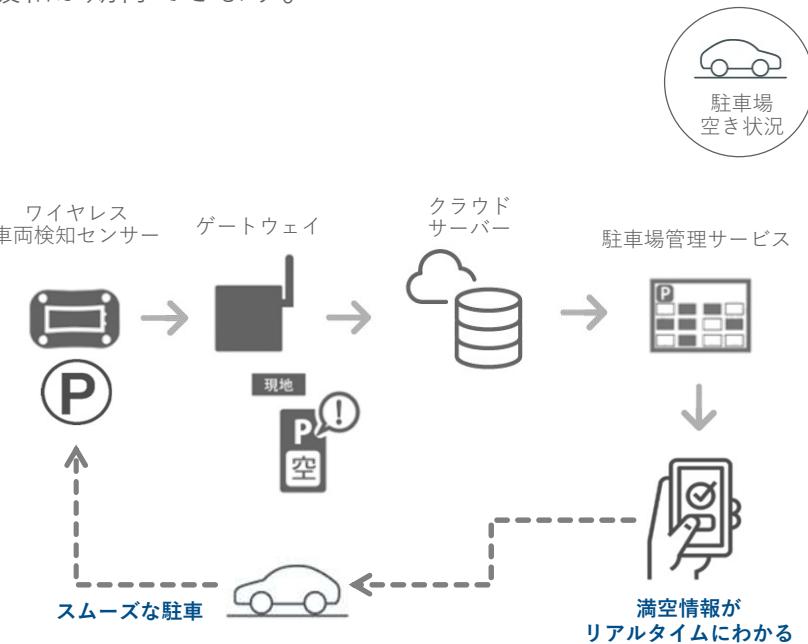
## 電気設備の故障・停電のリモート監視

分電盤や制御盤に電流クランプユニットをはさむだけの簡単工事で、電気設備の遠隔監視が可能になります。異常の発生を検知すると、IoT無線ユニットを介してメールで通知が送られるため、素早い初期対応が可能となり、被害を最小限に抑えることができます。



## 駐車情報マネジメント

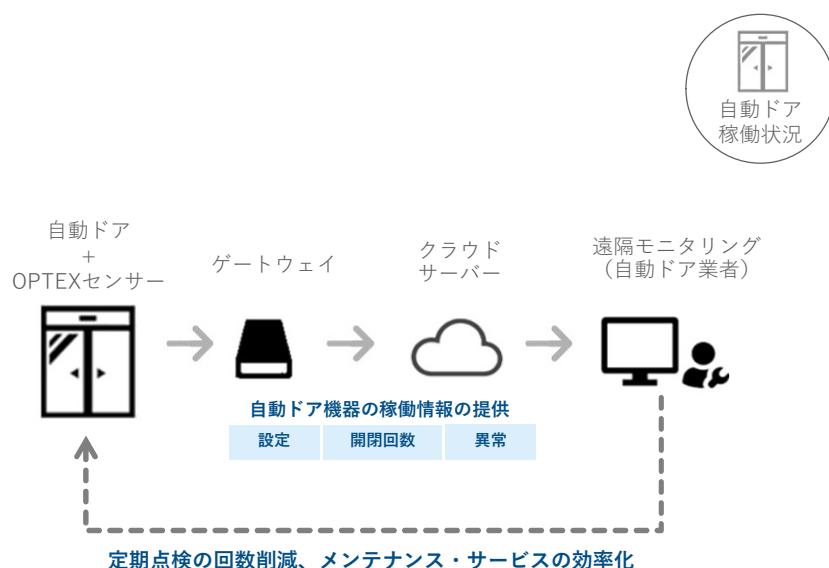
当社の満空管理システムは、センサー&通信&クラウド&アプリの技術を組みわせることで、IoTによる総合的な駐車情報管理システムの構築が可能です。例えばスマートフォンで満空状況の把握や事前予約ができるサービス。事前に満空情報を把握することができ、大規模商業施設や観光地周辺などの渋滞緩和が期待できます。



# 活用例のご紹介

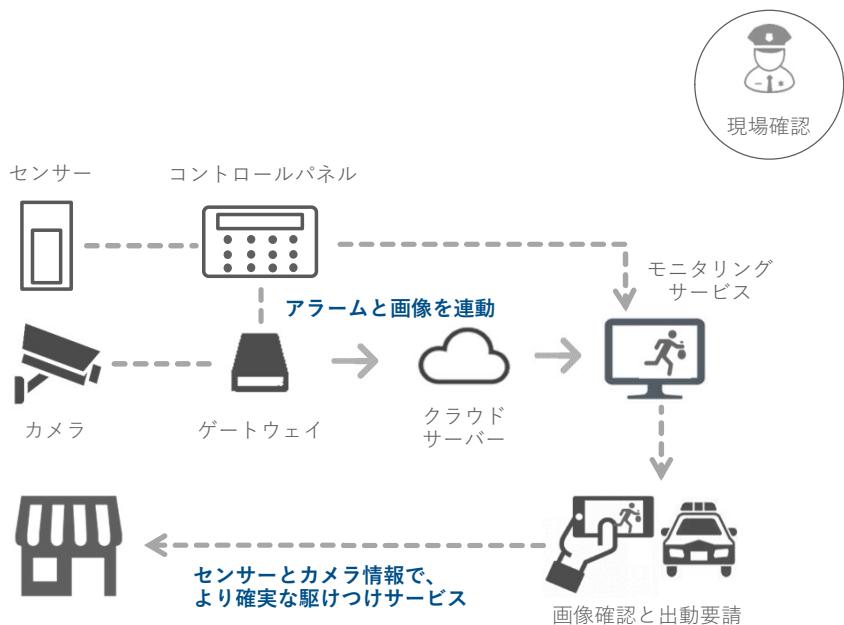
## 自動ドア遠隔モニタリング

自動ドアから得られるデータ（稼働情報、速度などの各種設定値、エラー情報）を提供できる自動ドアデータプラットフォームを構築しています。収集したデータを活用することで、現場から離れた場所でも自動ドアの利用状況がリアルタイムに可視化でき、機器や設備の予防保全や保守サポートの効率化を図ることが可能となります。



## アラームモニタリング+画像監視サービス

センサーが侵入者を検知すると、モニタリング会社に通知され、ただちに画像で侵入の有無を確認。侵入が確認されれば、ボイスワーニングや現場駆けつけ要請するモニタリングサービスに利用されています。セキュリティ用センサーにカメラ画像を加えることで、より確実な状況把握と対処が可能となりました。



## Inner DX

---

- グローバル業務改革への取り組み
  1. デジタル化への取り組み
  2. セキュリティ強化への取り組み
  3. グローバル物流改革および業務システム統一
  4. ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）
  5. 人員配置の効率化とデータ活用の推進
  6. 変化に強いオフィスの実現

# グローバル業務改革への取り組み

オプテックスは様々なグローバル業務改革に取り組み、経営戦略達成にむけての課題解決を行っています。

## 顕在化した課題



各所に経営上で重要なデータはあるが、全体として活用し切れていない



毎月の連結作業に多大な工数を消費



本社は部門最適、子会社は各社任せのIT投資



本社へのレポートはエクセル中心



物流コスト、物流LT、CS向上、それぞれ改善の余地がある

デジタル化への取り組み

1

セキュリティ強化への取り組み

2

グローバル物流改革

3

業務改革(ERP導入)

4

人員配置とデータ活用

5

オフィス環境改善

6



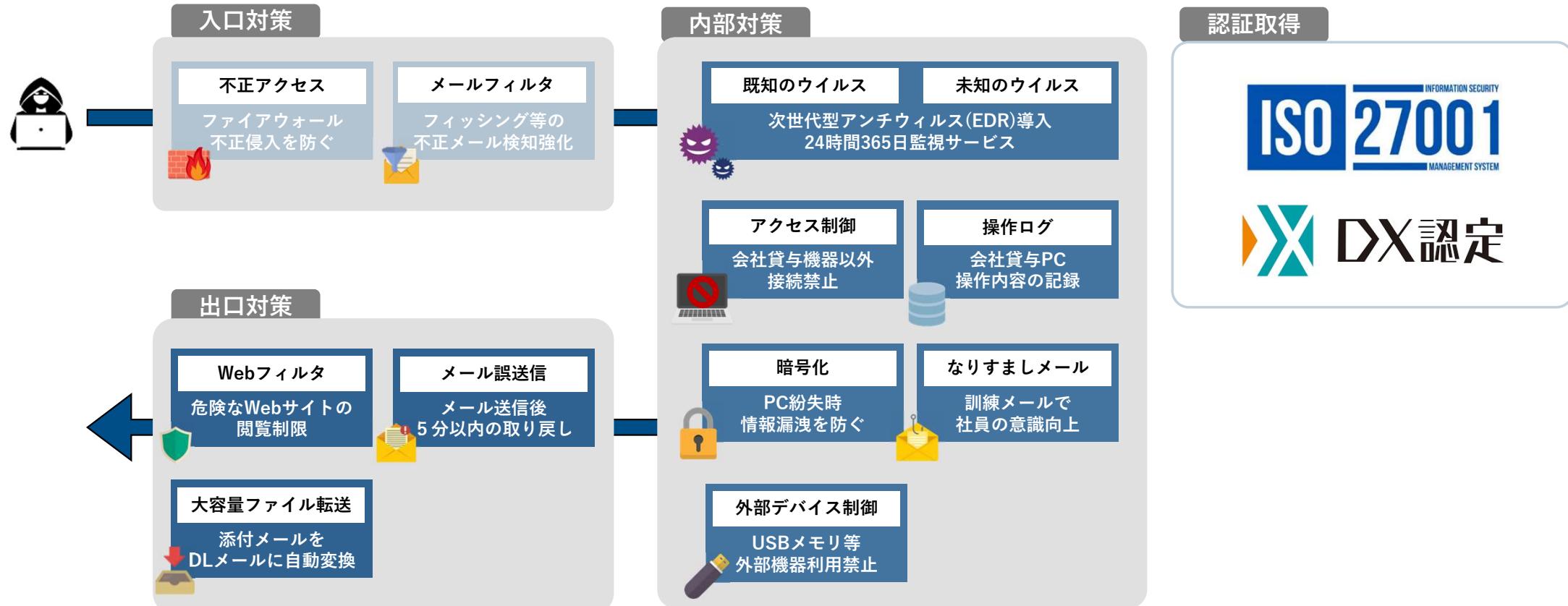
## 1. デジタル化への積極的な取り組み

私たちは『DX』という言葉が浸透する以前より、デジタル化に積極的に取り組んでいます。その結果、新型コロナウィルスによる非常事態宣言下においても大きな支障なく業務を継続できました。現在は、社員の多様な働き方にも柔軟に対応できる環境が整えられています。



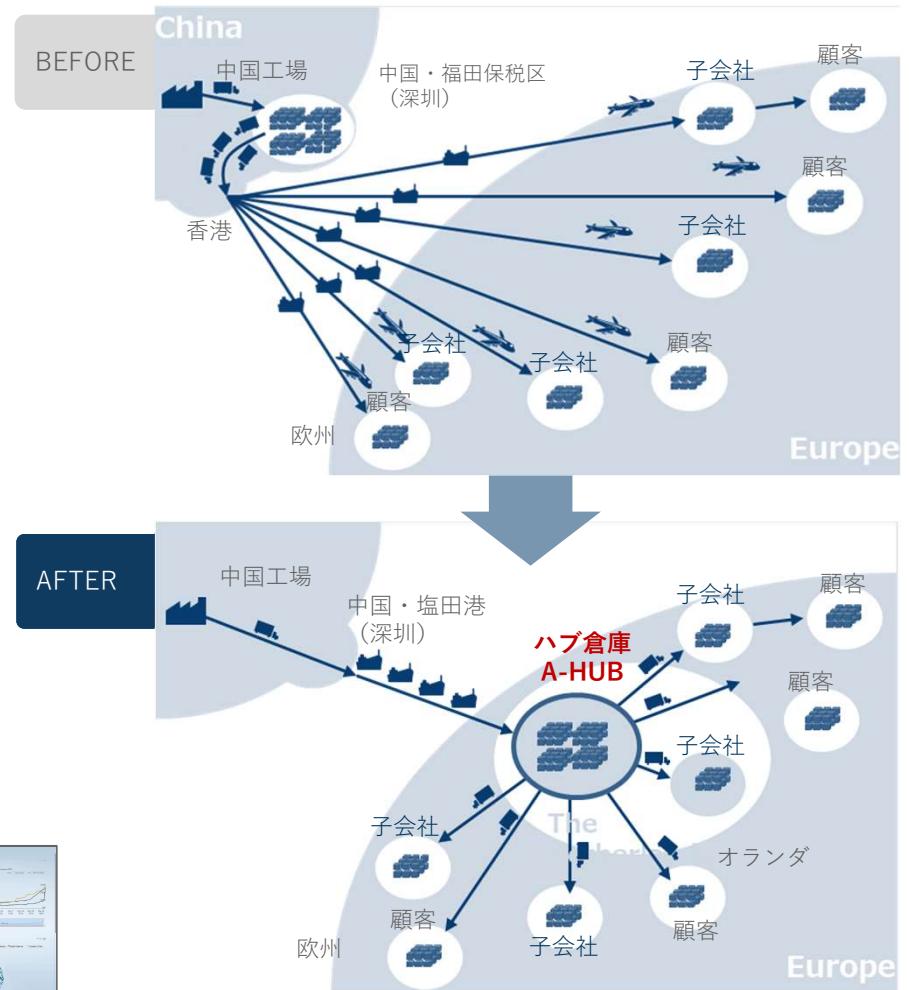
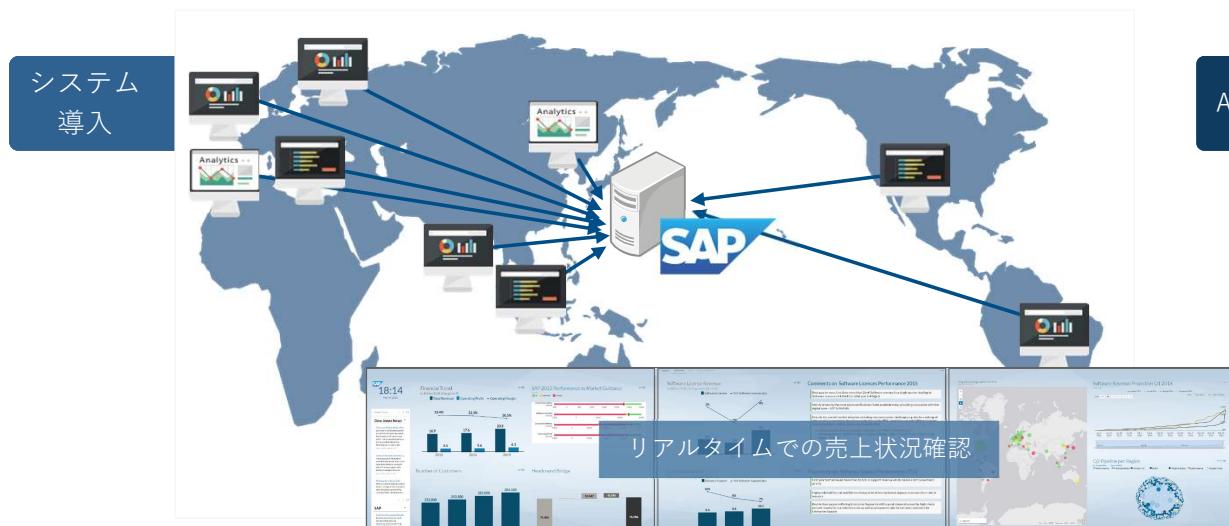
## 2.セキュリティ強化への取り組み

デジタル化を進めるにあたり、セキュリティの強化は欠かせません。入口から出口までの様々な技術的対策や社員教育による意識向上など、全方位のセキュリティ強化を図っています。また、DX認定やISO27001の認証も取得しています。



### 3.グローバル物流改革および業務システム統一

グローバル物流改革とグローバル業務システム導入を並行して実施し、業務標準化とシステム化によって世界的な物流量の増加に対応できる環境を整備しています。



## 4.ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）

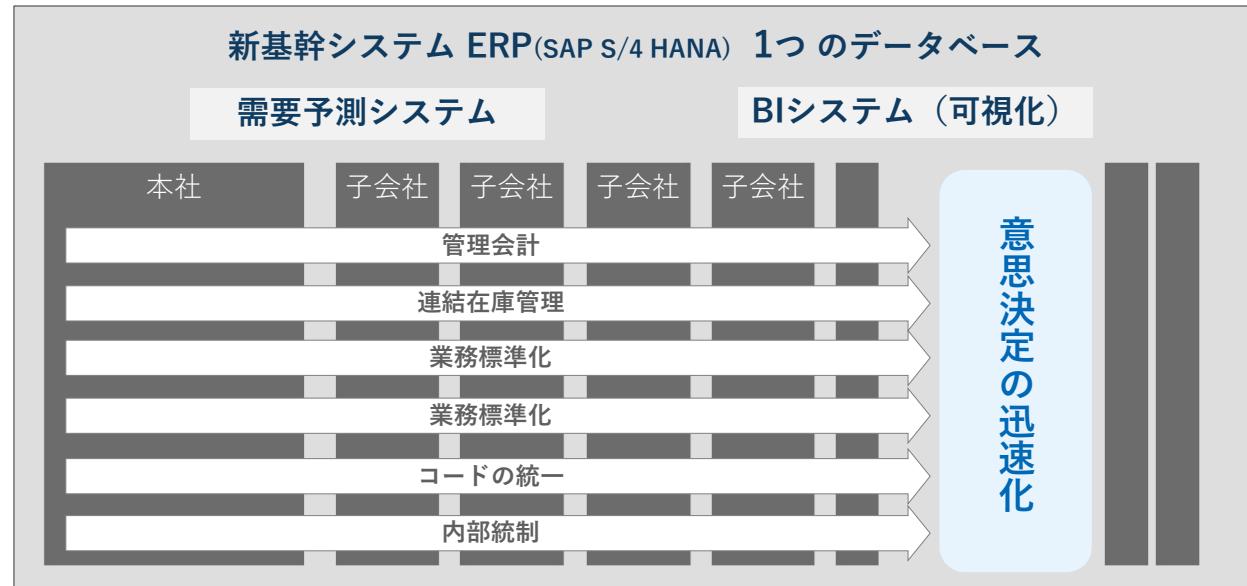
経営管理基盤の共通化を実現することで、子会社も含めた連結の状況をタイムリーに把握することができ可能になりました。これにより、各業務にて連結視点での業務遂行が実現できるようになっています。



### Before

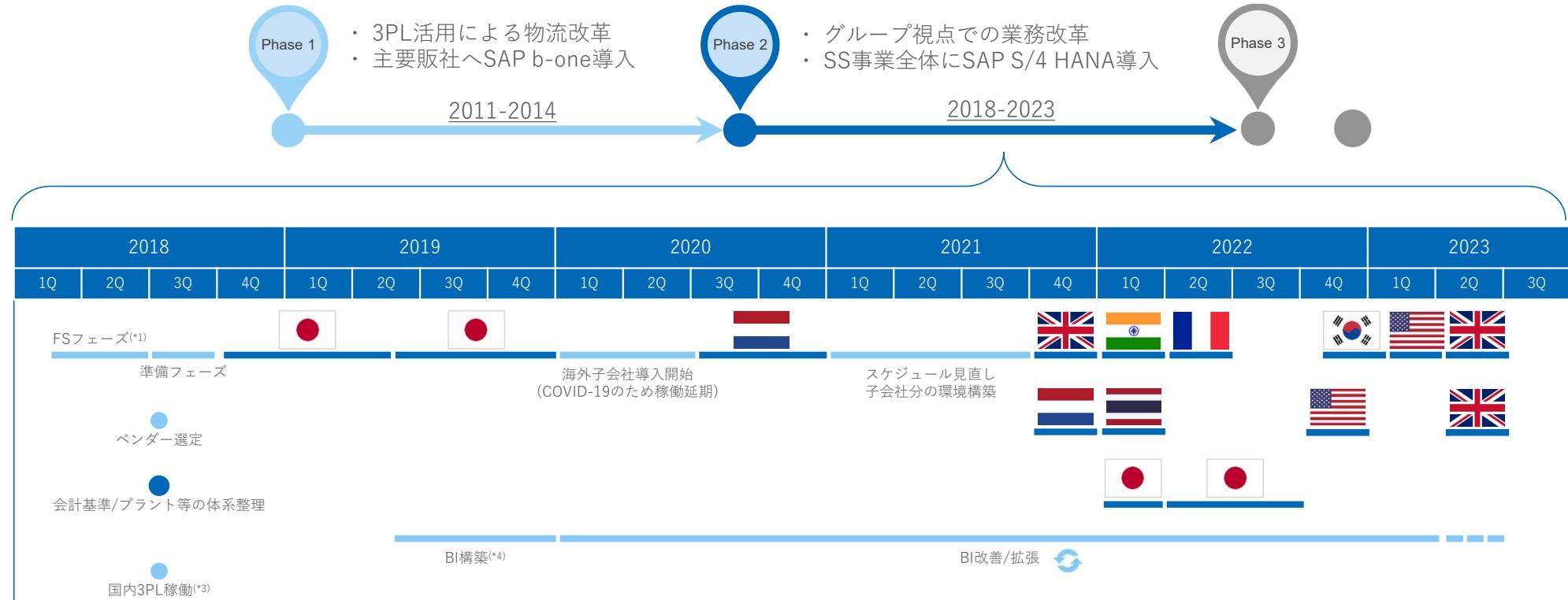
	効果的に連携できず迅速な意思決定が下せない
	情報は定型フォーマットでのみ提供
	会社を俯瞰する包括的データが無い
	事実にいくつものバージョンが存在
	準備に膨大な時間がかかる

### After



## 4.ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）

2018年から SAP S4/HANAを国内外すべてのグループ会社（15社）に順次導入し、2023年7月よりグループ全体が同じ基盤（シングルインスタンス）での運用を行っています。



(\*)1) フィジビリティスタディ プロジェクトの実現可能性を事前調査・検討  
(\*)2) 先行して会計機能 (FI, CO) と、セントラルファイナンス (CFI) を稼働。

(\*)3) 業務標準化のため、国内3PL稼働を稼働。(海外は、欧州、香港すでに稼働済み)  
(\*)4) BIツールは、SAC (SAP Analytics Cloud)。

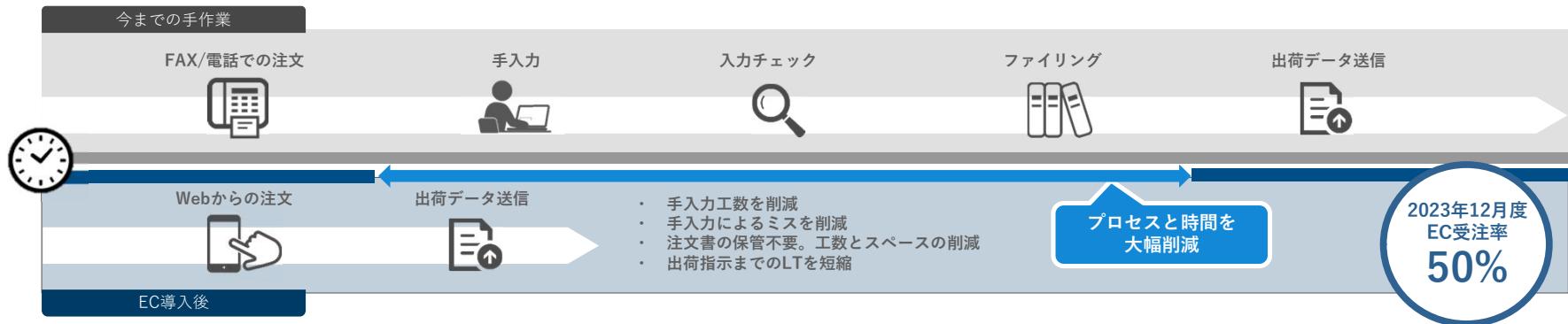
## 5.人員配置の効率化とデータ活用の推進

ERPとECサイトの導入により業務効率が大幅に向上。売上が増加する中でも5名の人員を効率化でき、業務担当一人当たりの売上高を34%増加させることができます。ERPとECサイトの連携により、重複業務や紙の書類の大幅削減を実現しています。

### ■人員配置



### ■ECサイト



## 6.変化に強いオフィスの実現

業務のデジタル化・標準化・情報セキュリティ強化を推進した結果として、在宅勤務やリモートワークも組み合わせた自由な働き方を選択できるようになりました。本社勤務260名のうち、8割以上にあたる約220名がフリーアドレスで業務にあたっています。同時に社員一人当たりの荷物量が7割削減し、ペーパーストックレスを実現しています。



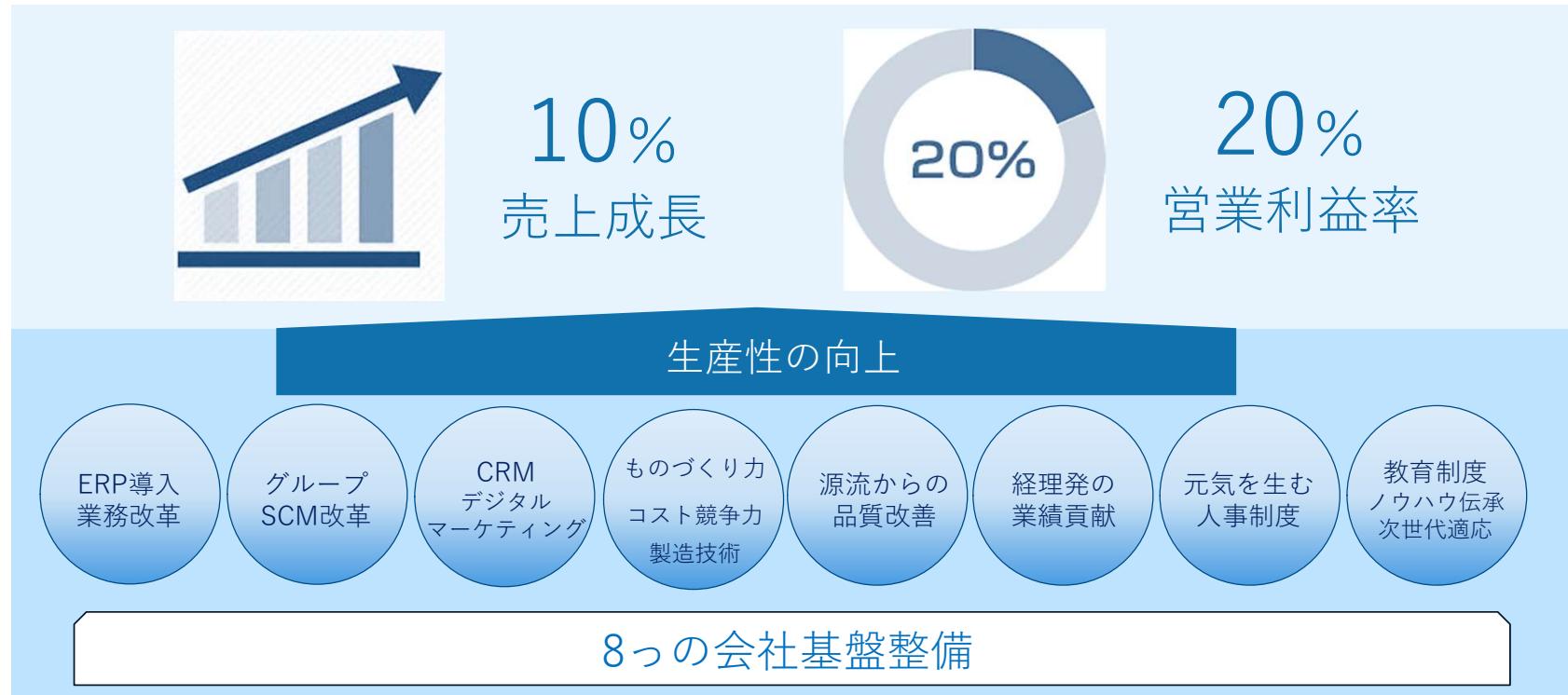
## 人財の強化

---

- 中期VISION

## 中期VISION

私たちは毎年10%の売上成長と営業利益率20%を目標に掲げています。 その目標達成に向け、8つの会社基盤を整備し、これらを推進する人財を育成することで生産性を向上させていきます。



## DX管理・推進体制

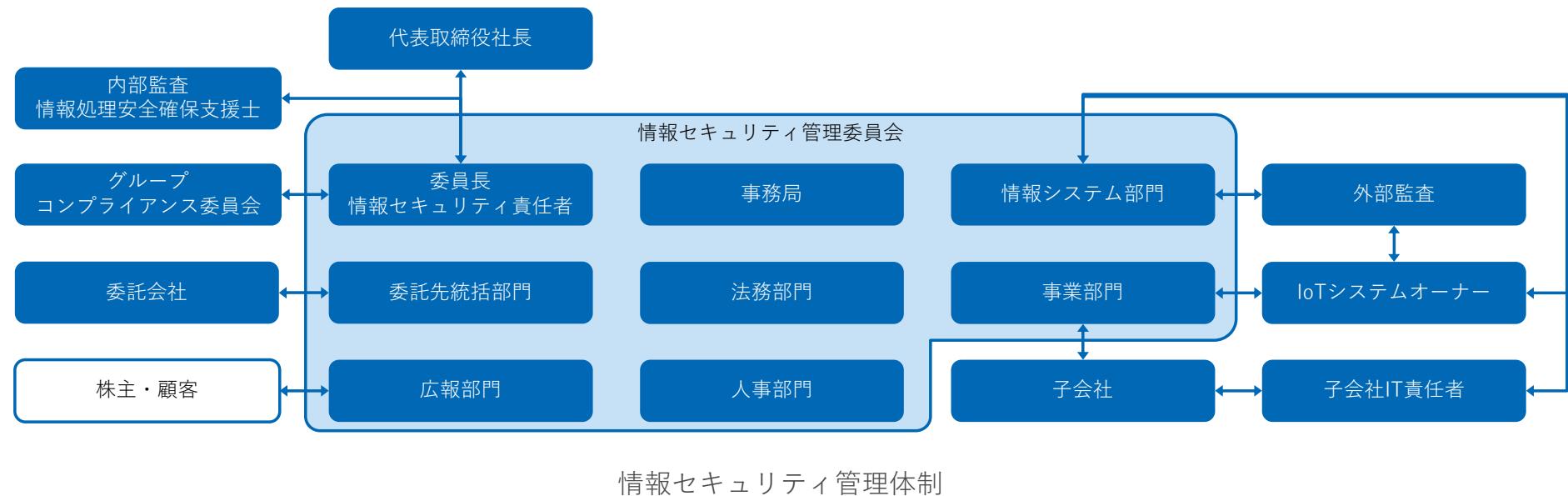
---

- DX管理体制
- DX推進体制

## DX管理体制

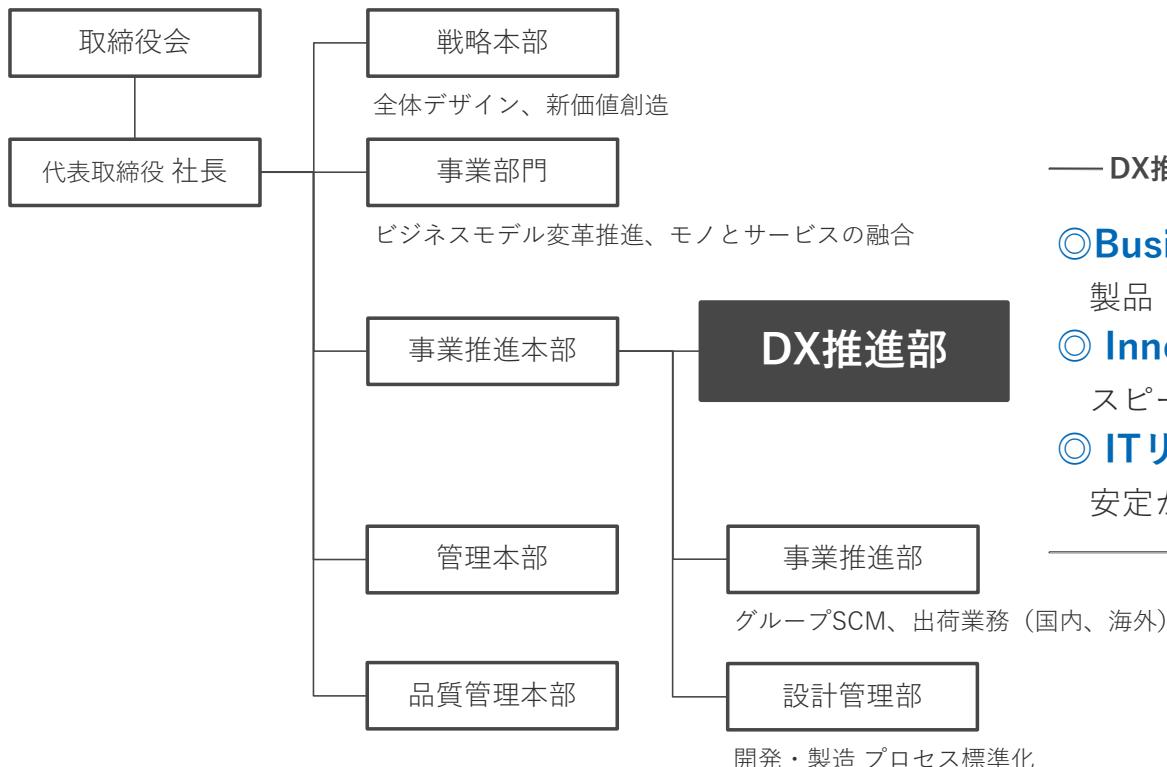
代表取締役社長を責任者とする以下の管理体制を構築し、情報セキュリティに係る対策、指導、緊急対応及び報告を行います。

情報セキュリティ管理委員会は定期的に開催され、管理・運用が適切に実施できていることを確認します。サプライチェーンにおけるセキュリティ対応も重要です。委員会メンバーである委託先統括部門から、展開されます。



# DX推進体制

企業にとって、DX推進が経営課題の最も重要な課題の一つです。弊社の情報システム部門の部署名は、DX推進部です。ミッションの全てがDX推進であることを表しています。また、担当取締役が情報セキュリティ責任者となり、経営と一体感を持った取り組みを進めています。



## — DX推進部のミッション —

### ◎ Business DX推進

製品・サービスを支えるIT基盤の運用・維持・最適化の実現

### ◎ Inner DX推進

スピード経営を実現するIT基盤の構築

### ◎ ITリテラシー向上を含めたセキュリティ強化

安定かつ安全なIT基盤運営とセキュリティ強化

[www.optex.co.jp](http://www.optex.co.jp)